

構造化コンテンツ 制作

適切に管理されたコンテンツ
開発で迅速な市場投入を実現



目次

コンテンツ開発者に対するプレッシャー	3
コンテンツ開発の課題	5
共同作業に伴う課題.....	6
ガバナンスに伴う課題.....	7
再利用に伴う課題.....	8
構造化コンテンツ制作：コンテンツ開発の変革.....	9
共同作業の効果を強化する設計	11
優れたコンテンツガバナンスを実現する設計	13
コンテンツを効率的に再利用できる設計.....	16
まとめ.....	17
適切な選択	18



コンテンツ開発者に対するプレッシャー

重要なサポート情報を準備できずスケジュールどおりに承認できなかった。その日遅くなってから重要なドキュメントのエラーが見つかった。そうした理由での製品の発売延期は、誰にとっても望ましくありません。しかし、多くの業界で市場投入スケジュールが早まり、規制管理が厳しくなる中、コンテンツ開発者による対応が難しくなっています。コンテンツ開発者は効率的に仕事を進めたいと思っていますが、同時に次のような困難な現実や制約にも直面しています。

多くの人々の関与

通常、重要な資料を作成する場合は、テクニカルライター以外に、専門知識を持つエキスパート（SME）、外部のアドバイザーやレビュアー、規制関連業務などのコンテンツ開発プロセスの責任者、その他のコンテンツ関係者など、さまざまなチームの人々から情報提供を受けなければなりません。1つのドキュメントが完成するまでに、社内外の多くの人々が関わる可能性があります。ドキュメントが大型化し、数百ページともなれば、パートごとに関わる人々が異なる場合もあり、問題はさらに悪化します。

規制要件

多くのコンテンツタイプは、特定のテンプレートやフォーマットを使用して、情報構造を特定の仕様に合わせる必要があります。規制当局の承認や監査が必要な場合はプロセスが複雑化しますが、納期を短縮するためにベストプラクティスを省略したりすると、組織のリスクはさらに高まります。規制の対象となるコンテンツは、最新の状態ではなくなっても、通常数年間は閲覧や監査が可能な状態にしておく必要があるため、効果的なバージョン管理と信頼性の高い監査証跡が不可欠です。

品質管理

多くの組織は、ドキュメントを作成、レビュー、承認、改訂、公開、配布、アーカイブ、廃棄する管理手順を遵守できるように支援する品質管理システム（QMS）を使用しています。しかし、こうしたシステムは、紙ベースでもデジタルアプリケーションでも、コンテンツの作成や更新を簡素化または効率化する目的で設計されていません。品質管理システムは優れたガバナンスの実現を支援するものであり、コンテンツ制作チームの目下の課題である、ドキュメント作成関連の弱点を解決するものではないのです。

ドキュメントのライフサイクル全般に十分な管理が必要



なぜ、非常に多くのコンテンツチームが、多数の人が関わり多数の規制要件があるコンテンツに苦慮し、適切に管理された品質管理の必要性を感じているのでしょうか。それは、根本的にツールやプロセスが不十分なためです。



コンテンツ開発の課題

ライフサイエンス、金融サービス、製造など、幅広い業界でコンテンツ開発のスピードと複雑さが増大する中、コンテンツチームは、もはや標準的なアプリケーションやプロセスでは業務に対応できないことを実感しています。以前は管理できていた非効率性とリスクが、許容できない遅延とコストを生み出しつつあるためです。

今日のコンテンツ制作の課題は、次の3つのカテゴリに分類されます。

共同作業

ガバナンス

再利用



共同作業に伴う課題

同時制作／同時レビュー：できていない、または不確実

複数の関係者がコンテンツ開発に関与している場合、効率性は関係者がどの程度うまく共同作業できるかにかかっています。あまりに多くの組織で、この共同作業が同時にではなく、順次、またはバラバラに行われています。ワープロファイルやPDFを電子メールで回覧したり、印刷したドキュメントに手書きで注釈を付けたりすることさえあります。こうしたプロセスは拙く、時間がかかり、バージョン管理や一元化に大変な労力を要することが少なくありません。アドバイザーリーコンサルタントや規制承認機関など、外部の関係者と共同作業する場合は特にそうです。

一部の組織は、同時制作／同時レビュー機能を謳うクラウドベースのワープロプラットフォームに移行しました。しかし、こうした共有環境で社内外の複数の関係者が同時に作業すると、競合やクラッシュを回避できるだけの十分な拡張性や安定性を確保できないことが判明しています。

関係者が多いほど、またはドキュメントが大きいほど、こうした問題が大きくなります。

詳細な制御ができない

ワープロドキュメントやPDFでは、ドキュメント全体のアクセス権を関係者ごとに制限（閲覧のみ、レビューのみなど）することはできますが、Aパートは編集可、Bパートはレビューのみ、というような権限付与はできません。また、それぞれの関係者が見る必要のないパートを無視できるように設定することもできません。こうした制御ができないと、ユーザーは自分が何をすべきか分からず、他の適任者が入力すべきところに入力したりして、時間を無駄にすることになります。

非効率的なレビュー

標準的なワードプロセッサには詳細な編集機能がないだけでなく、レビュー機能も限定的です。あるとしてもコメントフィルタリング機能ぐらいで、何が解決済みで何が未解決かを1か所で確認できるダッシュボードは備えていません。ライターやエディターがレビュアーに指示を出したり締切日を伝えたりする場合は、電子メールやワークフローアプリケーションなど、別のツールを使用しなければなりません。

ガバナンスに伴う課題

監査証跡：手段がない、または不確実

最悪の場合、制作とレビューのプロセスにおいてフィードバックや編集を一元管理する場所がないというだけの理由で、監査向けの有効な変更履歴を提供できません。

仮にクラウドベースのワープロプラットフォームを使用して変更履歴を生成できたとしても、その変更履歴は監査に必要な詳細レベルや、規制コンプライアンスに必要な長期安定性を備えていません。ワードプロセッサは、変更履歴を別のデータベースではなくドキュメント内に保存するため、ファイルの破損や不具合に弱く、操作や検索が困難です。

コンプライアンスをサポートしていない

標準的なワードプロセッサには、文書作成、編集、レビューのどの段階でも、特定のテンプレートやフォーマットへの準拠をサポートする機能がほとんど、もしくはまったく用意されていません。必須の要件を認識していない、またはうっかり失念した関係者が作業に関与した場合、間違ったフォーマットや構造が、誰にも気づかれずに簡単に使用できてしまう可能性があります。

また、チェックしてほしいコンテンツの他の場所に機密情報が書かれているような場合に、ドキュメントの一部分だけを非表示にすることもできません。標準的なワープロドキュメントやPDFでは、すべてにアクセスできるか、一切アクセスできないかのどちらかしかなく、データセキュリティの確保が困難です。

コンテンツの複製に伴う不正確性

既存のドキュメントを新しい製品モデルに適用するなど、承認済みコンテンツを再利用する場合、標準的なワードプロセッサでは、「別名で保存」するか、コピー&ペースト機能を使用するか、手作業で修正する方法しかありません。しかし、後者の2つの方法はエラーが生じやすく、どのような形式でコンテンツを複製しても、ある時点でコンテンツ更新の課題が生じます。長期にわたって進化してきた重要な製品関連コンテンツでは、コンテンツの一部の更新が必要になることが頻繁にあります。そうした場合に課題となるのが、同じコンテンツが表示されるすべての箇所を特定することです。非常に手間がかかり、見落としが生じがちなため、時間の経過とともにコンテンツの精度が低下する原因となります。これはコンプライアンス上の問題になることが多く、コンテンツの正確性に依存している人にとっては特に危険な可能性があります。

再利用に伴う課題

さまざまな製品のバリエーションや目的に対応するコンテンツ

コンテンツの複製はガバナンスの課題であるだけでなく、コンテンツ開発プロセスの効率性にも影響します。ライターは、新しい製品モデルや地域向けにドキュメントのバリエーションを作成する場合も、トレーニング資料やその他の目的のためにコンテンツを再利用する場合も、どの部分が承認済みで、どの部分が変更済みで、どの部分が完全に新しいかを追跡したり、確認したりする手段がありません。標準的なワードプロセッサはそうように設計されていないため、レビュアーは、まったく同じコンテンツのレビューと承認を繰り返し行い、かなりの時間を無駄にしています。また、コンテンツに見覚えがあるから承認されているのだろうと思い込み、注意を払う必要がある重要な変更が行われたことに気付きません。

サイロ化されたコンテンツの点在

こうした問題を組織全体に広げて考慮すると、非効率性は何倍にもなります。信頼できる唯一の情報源を参照する習慣がないために、さまざまな部門がすでに存在するコンテンツを繰り返し再作成しています。これではミスが増え、一貫性も損なわれます。また、個々の部門でも企業全体でも、コンテンツの使用状況を把握できません。

1,000名のナレッジワーカーを抱えるある企業では、スタッフの16.5%が、少なくとも一日に1回、新しい情報資産を作成した後で、類似の既存資産の存在に気づくという経験をしています。

IDC、『The Future of Knowledge Management: Agile, Governed, and AI-Ready Componentized Content Services』、2021年8月

チャネル別のコンテンツ

各種コミュニケーションチャネル向けに、同じコンテンツを複数のフォーマットで用意しなければならない場面が増加しています。オンラインサポートコンテンツは、さまざまなデバイスで利用できるようにする必要があります。トレーニングは従来の形式に加え、新しい拡張現実や仮想現実（AR/VR）の形式でも提供されています。コンテンツは、完全にデジタル化されたワークフローからも、チャットボットやその他のAIアプリケーションからも使用できるようにする必要があります。各種チャネル向けにコンテンツを複製するたびに、同様の非効率性とガバナンスの問題が倍増します。

構造化コンテンツ制作：コンテンツ開発の変革

コンテンツ開発の非効率性やガバナンスの問題が明らかになってきた中、コンテンツ開発チームが注目しているのが、Tridion Docs Collective Spacesなどの直感的な構造化コンテンツ制作 (SCA) ツールです。

Collective Spacesは、コンテンツの制作、管理、配信を1つのソリューションでカバーする総合的なコンポーネントコンテンツ管理システム (CCMS)、Tridion DocsのSCAモジュールです。

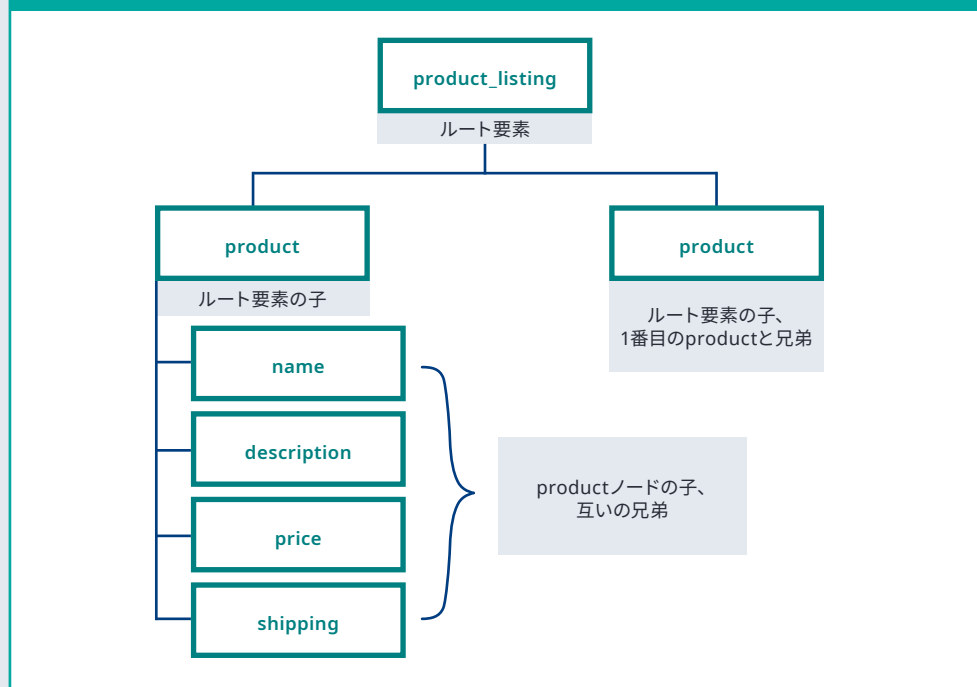
構造化コンテンツとは？

構造化コンテンツは、スキーマまたはコンテンツモデルと呼ばれる一連のルールによって定義される、予測可能な方法で編成された情報であり、通常はメタデータと呼ばれる記述的な情報も含まれています。

構造化コンテンツのスキーマは、コンテンツコンポーネント間 (モジュール、アトム、トピック、フラグメントとも呼ばれます) の関係を指定します。そのため、構造化コンテンツを作成するには、コンテンツコンポーネントとその関係を処理する制作ツールが必要です。

構造化コンテンツを保存および共有する一般的な形式はXMLですが、他の形式もあります。これらはすべてハードウェアにもソフトウェアにも依存しないため、あらゆるアプリケーションやチャネルで情報を利用でき、人も機械も読み取れるようにすることができます。

XML構造



Wordライクな直感的なインターフェイス

すべてのSCAツールが直感的に使用できるわけではありませんが、Collective Spacesは間違いなく直感的に使用できます。ガバナンスのベストプラクティスが組み込まれ、コンテンツを複製せずに再利用できるなど、コンテンツを効率的かつ正確に作成できるように支援するさまざまな機能が、Wordの使い慣れた操作性と統合されています。

共同作業

社内外を問わず、人数無制限の共同制作者、エディター、レビューアーが、同じコンテンツを操作できます。きめ細かな制御機能でコンテンツに対して誰が何をできるのか指定し、高度な機能でレビュープロセスを効率化できます。

11ページを参照

50%
年単位の
効率性向上¹

ガバナンス

すべての編集とコメントを100%信頼できる監査証跡として記録し、規制要件への準拠を強化します。コンテンツの重複を排除し、コンテンツの更新を効率化することで、コンテンツの正確性とコンプライアンスを向上させます。

13ページを参照

100%
監査証跡の
信頼度

再利用

コンテンツを複製せずに再利用できるため、必要に応じて、正確でリスクのないバリエーションやさまざまな形式を作成できます。信頼できる唯一の情報源を確保できます。

16ページを参照

平均32%
5年後の
コンテンツ
再利用率²

1 出典：Tridionクライアントデータ

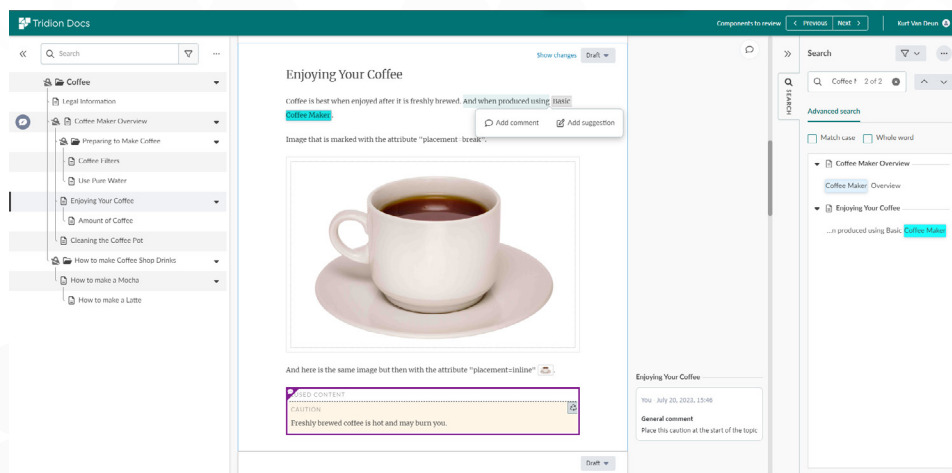
2 Crimson Consulting Group、『Quantifying the Benefits and High ROI of Tridion Docs』
(Tridion Docsのメリットと高いROIを数値化)、2015年

共同作業の効果を強化する設計

コンテンツをドキュメントとして保存し管理する標準のワードプロセッサとは異なり、SCAツールはコンテンツをより小さなコンポーネント（トピック、モジュール、アトム、フラグメント）として保存し管理します。コンポーネントとは、フレーズや段落、一連の段落、画像、動画、表など、コンテンツを構成する要素です。各コンポーネントは個別に保存、管理され、関連コンポーネントを組み合わせてドキュメントまたはその他の成果物が作成されます。

直感的かつ高い安定性と拡張性

Collective Spacesは、このようにコンポーネント化されたアーキテクチャとウェブベースの制作/レビュー環境を組み合わせることで、共同作業を変革します。標準的なウェブブラウザからアクセスできるオンラインプラットフォームは、馴染みのあるWordに似た直感的なインターフェイスを使用し、あたかも1つのパブリケーションであるかのようにコンポーネントを表示します。制作者、エディター、レビュアーは、使い慣れたあらゆるワープロ機能を使用して、従来の方法で作成されたようにパブリケーションを表示して作業できます。しかし、基盤となるアーキテクチャが従来とは異なり、拡張性と安定性ははるかに高いため、ラグやクラッシュを発生させずに、数百ページのドキュメントや任意の数の同時ユーザーを容易に処理できます。



信頼性の高い同時制作/同時レビュー

社内外のすべてのユーザーがブラウザを使用して同じコンテンツにアクセスできるため、全員が同じ環境内で、常に最新バージョンに対して作業を進めることができます。レビュアーが複数名いる場合も、競合せず同時に同じコンテンツにコメントを付けることができます。また、提案された編集内容が明確に表示されるため、他のユーザーはリアルタイムで確認し、対応できます。ライターやエディターがコンテンツの修正に入ると、システムが自動的に作業対象のコンポーネントを「ロック」し、他のユーザーが同時に編集できないようにします。このような強力な競合回避機能も、標準的なワードプロセッサには搭載されていません。

詳細な制御と効率化されたレビュー

CollectiveSpacesは、水面下ではコンポーネントレベルで動作しているため、コンテンツに対して、誰が何を行うか（制作、編集、レビュー）をコンポーネントレベルで指定できます。たとえば、ある関係者にはドキュメントの一部の編集を依頼し、他の関係者にはレビューのみを依頼するなど、全員に明確な指示を出すことができます。ライターとエディターは、レビュアーに対する指示を書き込んだり、期限を設定したりもできます。複数の方法でコメントをフィルタリングできるほか、不適切なコメントを見かけたとき、そのコメントが付けられたときのコンテンツの状態を「時間をさかのぼって」確認できます。

こうした機能は、ドキュメントの作成やレビューにかかる労力とコストを大幅に削減する、効率的で透明性の高いプロセスに貢献する多くの機能のほんの一部にすぎません。

「DITAやXMLの経験を一切必要とせずに、高度なコンテンツを細かく制御できます。アクセス用のリンクを提供して、担当者が変更を加えて、こちらで公開するだけです。はるかに効率的に作業できるようになりました」

CommScope

優れたコンテンツガバナンスを実現する設計

Collective Spacesは、品質管理システムでは対応できないコンテンツ開発の問題に対応するため、多くの業界がTridion Docsと自社のQMSをシームレスに統合して情報ガバナンスを向上させています。

100%信頼できる監査証跡

Collective Spacesは、コンテンツに加えられたすべての変更を、いつ誰が行ったかとともに自動的に記録します。全員が同じ環境で作業するため、すべてを漏らさず記録されます。テキスト、画像、構造、属性などに加えられた変更はすべて、レビューとコメントの履歴とともに記録されます。

こうした履歴は別のデータベースに保存されるため、保管期間がどれだけ長くても、確実に、かつ安定的に保たれます。強力な検索機能など、直感的なユーザーインターフェイスを備えているため、監査を大幅に簡素化するとともに、ライターその他の作業者が過去の経緯を把握し、次の作業者に指示を伝えるのに役立ちます。

規制コンプライアンスを簡素化

Collective Spacesは、各種必須要件の準拠を次のような方法で支援します。

- **構造の検証。**コンテンツが特定の構造テンプレートに準拠している必要がある場合、SCAを使用すると、スキーマまたはコンテンツモデルによって設定されたルールに沿ってこれを徹底させることができます。ライターやエディターが作業中に必要な要素を除外したり、必要でない場所に配置しようとしたりとすると、リアルタイムの検証機能がそれを阻止します。
- **下流の書式設定を自動化。**コンプライアンスのために特定の書式設定に従わなければならない場合でも、ライター、エディター、レビューアーは心配無用です。コンテンツの公開準備が完了すると、Collective Spacesにより、適切な公開テンプレートとスタイルシートが自動的に適用されます。コンテンツ制作関係者は、専門知識を活かしてコンテンツのみに集中できます（もちろん、最終成果物のプレビューが必要なときはプレビューできます）。
- **きめ細かなアクセス制御。**コンポーネントレベルの制御は共同作業の向上に役立つほか、特定のコンポーネントの閲覧を許可されているユーザーのみにアクセスを許可することで、データセキュリティも向上させることができます。レビューまたは編集が必要な部分へのアクセスを制限せずに、ドキュメントの一部を、閲覧してはならない人が閲覧しないように効果的にブロックできます。

正確でタイムリーな更新を保証

SCAツールを使用すると、ドキュメントとその他の成果物は、コンパイルして公開するときに初めて1つのファイルとして存在するようになります。このときコンポーネントは複製されません。このアプローチは「COPE」(create once, publish everywhere:一度作成すれば、どこでも公開可能)と呼ばれています。SCAツールであるCollective Spacesは、この方程式の半分、つまり「一度作成すれば」の部分を実現します。残りの半分、つまり「どこでも公開可能」の部分は、他のTridion Docsモジュールが処理します。

コンテンツの一部の更新が必要になっても、ライターやエディターが、そのコンテンツが使用されているすべての箇所を手動で更新する必要はもうありません。ライターやエディターの作業は、Collective Spacesで対象のコンポーネントを更新するだけです。それが使用されている箇所はTridion Docsが管理しているため、必要な箇所を即座に再公開できます。

また、Collective Spacesでは任意のデータソースやコンテンツリポジトリへのリンクも作成できるため、ライターやエディターがこうした統合されたソースからデータやその他のコンテンツをコピー&ペーストしたり、修正したりする必要もなくなります。情報を直接参照できるため、ソースが更新されると自動的に更新されます。

COPEアプローチによってコンテンツの重複を排除することで、コンテンツのタッチポイント全般の精度を向上させることができます。コピー&ペーストや再入力に伴うエラーがなくなり、更新が必要なコンテンツを見つけ損ねる心配もなくなります。コンプライアンスを遵守するにはコンテンツをタイムリーかつ包括的に更新しなければならないことが多いため、これはSCAへの移行に向けた大きな推進要因となります。

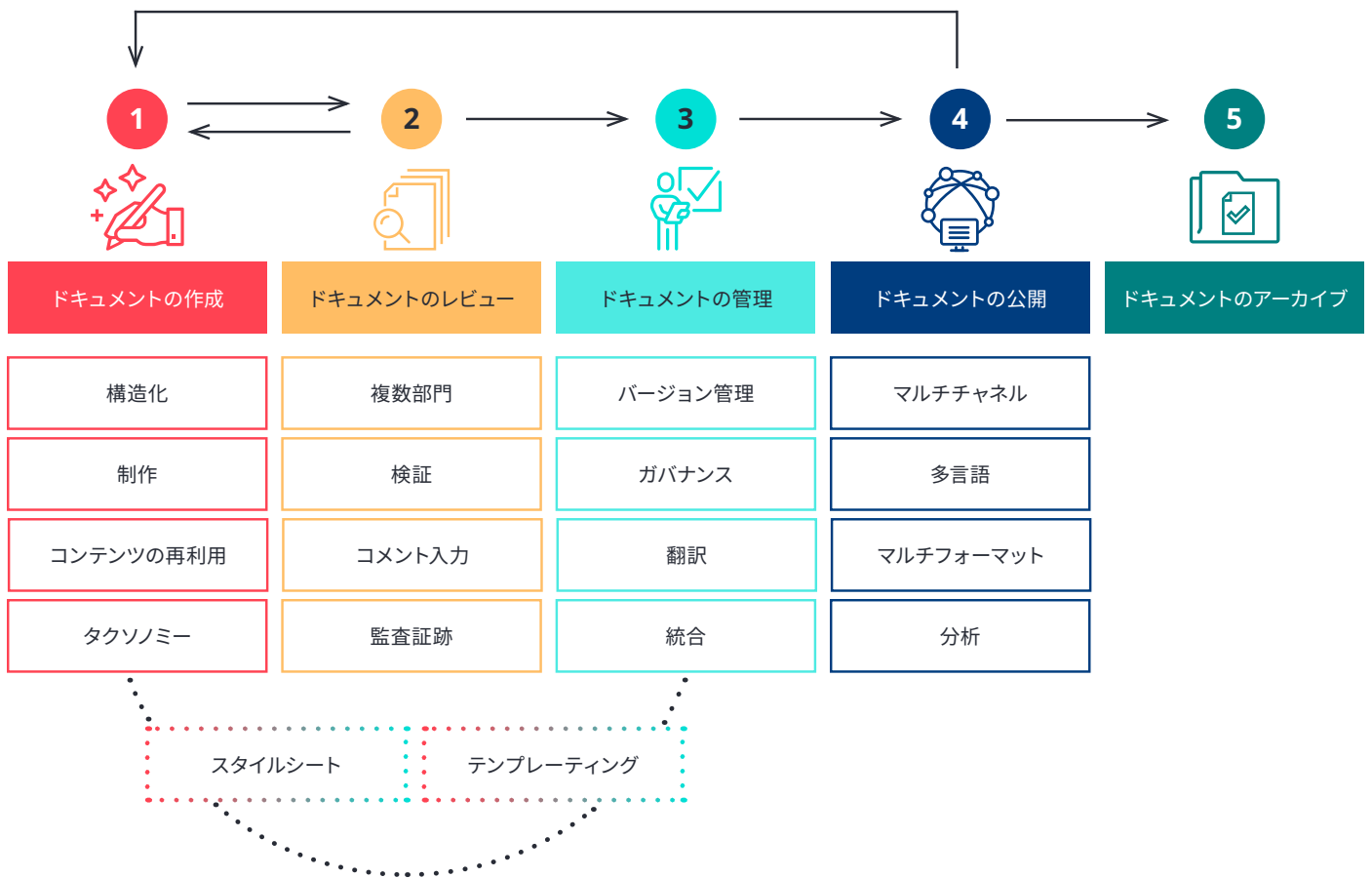
「処理時間と人材の節約に本当に役立ったのは、最終版となったすべてのテキストモジュールを、再度チェックする必要なく無限に再利用できるようになった点です」

Linde





構造化コンテンツのライフサイクル



コンテンツを効率的に再利用できる設計

Collective Spacesを導入すれば、コンテンツコンポーネントの作成とレビューを一度行うだけで、あとは各コンポーネントをさまざまな箇所で何度でも使用できます。複製がなくなるため、コンテンツの再利用にまつわるリスクや非効率性から解放されます。

バリエーションを簡単に作成

一度承認されたコンポーネントは再レビューする必要がありません。Collective Spacesには、コンテンツが変更されておらず、すでに承認済みであることをレビュアーに示す機能が組み込まれています。同様に、コンポーネントに変更が加えられ、再レビューが必要であることも分かりやすく示されます。また、Tridion Docsの幅広いコンテンツ管理機能を使用することにより、ライフサイクル全般にわたってコンテンツのバージョンやバリエーションをシームレスに管理できます。

信頼できる唯一の情報源を構築

Collective Spacesは、信頼できる唯一の情報源を組織が確立するための基盤となります。Collective Spacesを導入すれば、コンテンツの重複を排除するだけでなく、コンテンツ開発者がより詳細なレベルでメタデータを適用して、コンテンツの検索容易性を高めることができます。コンテンツを簡単に検索できれば、すでにあるコンテンツを再度作成してしまう可能性ははるかに小さくなります。信頼できる唯一の情報源を企業全体で確保することで、コンテンツの使用に関する有意義な分析も可能になります。

どこでもコンテンツを使用

構造化コンテンツは形式を気にせず保存でき、簡単に共有できるように設計されているため、さまざまな目的やチャンネルごとに適切な書式設定をコンポーネントに簡単に適用できます。Collective Spacesは、オムニチャンネルパブリッシング、没入型AR/VR体験、チャットボット、バーチャルアシスタント、その他のアプリケーションへのコンテンツの提供をサポートします。

「当社のさまざまなブランドと製品のすべてについて、多様なコンテンツを管理し、お客様に応じて適切な情報を提供する方法が必要でした。Tridion Docsは当社の要件を満たし、目標の達成に役立つ魅力的なシステムを提供していました」

Atlas Copco

まとめ

なぜ重要なのか

多くの業界で、複雑なコンテンツをより迅速に制作することが求められています。開発するビジネスクリティカルなコンテンツの種類が多く、関与する人数も多い場合、プレッシャーはさらに大きくなります。

こうしたコンテンツの多くは規制当局の承認を必要とし、指定された規格に準拠している必要があります。数十年以上にわたって進化させ、使用し続けているコンテンツは、常に正確で最新の状態である必要があります。使用後は、その履歴の完全な記録とともに何年も保持する必要があります。

課題

標準的なワープロツールを使用していると、社内外の関係者が効果的に共同作業することが難しくなります。同時制作/レビューは不可能または不確実で、コンテンツへのアクセスをほとんど制御できず、レビューと承認のプロセス全体が煩雑になり、時間がかかります。ドキュメントの変更履歴について、安定的かつ信頼できる監査証跡を作成することができないと、規制コンプライアンスに必要な情報は、関係者がすべて記憶しておかなければならなくなります。

コンテンツを再利用するために複製を行うため、エラーや更新の問題が発生し、コンプライアンスと安全性に悪影響が及びます。企業がコンテンツの再利用や再フォーマットを希望する理由は数限りなくありますが、残念ながら、そう簡単には実現できません。

解決策

Collective Spacesを使用すれば、形式に制限のないコンポーネントとして、制作/レビューのための共有オンライン環境内にコンテンツを作成できます。

コンポーネントベースのこの環境は安定性と拡張性に優れ、あらゆる人数の共同制作者、エディター、レビュアーが、競合を生じさせずに同時に使用できます。アクセス制御で個々のコンテンツコンポーネントを閲覧または編集できるユーザーを指定し、直感的な機能でレビューを効率化し、規制要件への準拠を向上させることができます。すべての編集内容とコメントが、100%信頼できる監査証跡に記録されます。

コンポーネントは複製せずに再利用されるため、正確性が向上し、コンテンツの更新が簡素化されます。コンプライアンスと安全性を確保できるだけでなく、信頼できる唯一の情報源を作成して、必要な場所や方法を問わずコンテンツを効率的に転用できます。



適切な選択

Collective Spacesは、Wordライクな直感的なインターフェイスを備えた最先端のオンラインSCAツールです。DITA仕様（XMLベースの制作/公開規格）を使用し、他のSCAツールが標準で備えていないさまざまな機能を備えています。たとえば、内蔵のタクソミー管理機能やAIによるスマートタグ付け機能などを使用すると、ライターはコンテンツに最適なメタデータタグを適用して見つけやすさを向上（コンテンツを検索用に最適化）させることができます。

Collective SpacesはTridion Docsの一部であるため、Tridionプラットフォームに組み込まれた他のAIによる機能だけでなく、すべてのCMS機能を活用できます。CMSとすでに統合されているSCAツール、Collective Spacesを選択するには、**多くのメリット**があります。

ただし、スタンドアロンのSCAツールが必要な場合や、DITAがビジネスに適していない場合は、RWSが提供するもう一つのSCAツール、**Fonto**についてお問い合わせください。Fontoは、一つのソリューション内にCollective Spacesの大半の機能（すべてではありません）を備えており、XMLスキーマに対応するように構成して、任意のCMSと組み合わせて使用できます。

Tridion Docs Collective Spacesを選択する理由：

- 効率を年間**50%**向上¹
- コンテンツを長期にわたって活用可能
- コンテンツ開発コストとローカリゼーションコストを**30～50%**削減¹
- エラーと不正確な箇所を削減
- 5年後に平均**32%**のコンテンツ再利用率²
- QMSのメリットを強化
- **100%**信頼できる監査証跡



1 出典：Tridionクライアントデータ

2 Crimson Consulting Group、『Quantifying the Benefits and High ROI of Tridion Docs』（Tridion Docsのメリットと高いROIを数値化）、2015年

お客様固有の要件に基づき、最適なSCAソリューションを ご提案いたします

お問い合わせ

RWSについて

RWS Holdings plcは、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、AIを活用したテクノロジーと人間の専門知識を組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバルな理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

過去20年間にわたり、当社は独自のAIソリューションを進化させるとともに、お客様による多言語AIアプリケーションの探求、構築、使用を支援してきました。また、40件以上のAI関連特許と100件以上の査読論文を保有し、お客様のAI導入をサポートしてきた経験と専門知識があります。

世界のトップブランド100社の80%以上、フォーチュン誌の「最も賞賛される企業」20社の4分の3以上、さらに大手製薬会社、投資銀行、法律事務所、特許事務所のほぼすべてが当社を利用しています。クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、北南米に広がっています。5つの大陸に展開した65を超えるグローバル拠点から、自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野のお客様にサービスを提供しています。

1958年に設立されたRWSは、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています (RWS.L)。

詳細については、www.rws.com/jpをご覧ください。

© 2023 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group*の機密情報および専有情報とみなされます。

* RWS Groupとは、RWS Holdings plcおよびその関連会社および子会社の代表を意味します。